

Daily Report (号外)

～米雇用統計について～

結果概要

米国労働省が5月8日に発表した4月の米雇用統計は、大幅な悪化となりました。非農業部門雇用者数は、前月比2,050万人減と、市場予想(2,200万人減)を上回る結果となったものの、雇用統計史上、最も急激かつ大幅な減少となりました。特に娯楽・接客業が打撃を受けており、同分野の労働者は約765万人減少しました。更に、教育・保険業分野では約254万人、小売業では約211万人の雇用が減少しました。

一方、米国労働省によると、現在、仕事の無い人の約5分の4が一時帰休中であり、これは早期の再就労が可能な一時的な離職者が極めて多いことを示しています。失業率は+14.7%(市場予想+16.0%)と前月の+4.4%から大幅に上昇しました。平均時給は前年同月比+7.9%(前月+3.3%)、前月比も+4.7%(前月+0.5%)と共に大きく上昇しましたが、賃金上昇圧力が時給を押し上げたのではなく、レジャーや接客業等、低賃金の分野に属している労働者の失業が大幅に増えたという特殊要因が背景にあります。

市場の反応

8日の米国株式市場は続伸しました。4月の雇用統計において雇用減少幅が過去最大となったにもかかわらず、リスク選好の流れが継続しました。投資家は雇用への打撃を想定していたことや新型コロナウイルスの発生源を巡る米中対立が先鋭化すると懸念が後退し、市場心理が改善したことからダウ工業株30種平均(ダウ平均)は前日比+1.9%高となりました。その他の米国主要指数(S&P500+1.7%高、ナスダック総合指数+1.6%高)も軒並み上昇となりました。

米国債券市場では4月の雇用統計が市場予想ほど悪化しなかったことから利回りは上昇し、10年国債利回りは前日比+0.04%の0.68%程度で引けました。

米ドル/円は、米中関係が悪化すると懸念が後退したことから相対的に安全通貨とされる円を売り米ドルを買う動きが優勢となり、円安・ドル高で取引を終えました。



(期間)2020/2/3～2020/5/8、(出所)Bloomberg

今後の見通し

新型コロナウイルス感染拡大による経済への打撃は甚大で、4月の雇用統計は戦後最悪の内容となりましたが、短期間に急増した失業者数を正確に捕捉できていない可能性が高く、ハセット大統領顧問も指摘するように、5月分は一段の悪化が見込まれます。

一方、市場では、当面発表される経済指標は史上最悪レベルではあるものの、それは“バックミラー”との見方が高まっており、むしろ新規感染者数頭打ちに伴う経済活動再開や治療薬・ワクチン開発に関するポジティブなニュースを背景に、当面株式相場は底堅く推移することが予想されます。

ただし、経済活動の再開は感染再拡大のリスクと裏腹であり、そのペースは緩慢にならざるを得ないと見ています。夏場以降、発表される経済指標が想定よりも改善していないことに市場が失望するリスクには注意が必要と考えます。

(ご参考) 主要業種別雇用者数増減(前月比・万人)

出所:米国労働省

	19/11	19/12	20/1	20/2	20/3	20/4
非農業部門	26.1	18.4	21.4	23.0	-87.0	-2,050.0
鉱工業部門	4.5	0.5	1.3	5.6	-7.4	-235.5
建設業	-0.2	1.6	3.8	4.6	-3.3	-97.5
製造業	5.8	-0.2	-2.2	0.8	-3.4	-133.0
資源・鉱業	-1.1	-0.9	-0.3	0.2	-0.7	-5.0
サービス部門	20.2	15.9	16.6	14.3	-76.8	-1,716.5
卸売業	0.3	0.7	0.4	-0.3	-0.3	-36.3
小売業	-1.4	4.1	-0.3	0.3	-4.5	-210.7
輸送・倉庫業	2.3	-0.2	2.3	0.0	-0.7	-58.4
情報	0.9	0.9	1.1	0.0	-0.4	-25.4
金融	1.2	1.0	0.9	2.2	-0.3	-26.2
専門・ビジネスサービス業	3.7	2.2	2.0	0.6	-6.9	-212.8
人材派遣業	0.3	0.5	-0.4	-0.6	-5.8	-84.2
教育・保険業	7.3	2.9	6.9	5.2	-10.1	-254.4
娯楽・接客業	4.3	4.0	2.4	5.9	-49.9	-765.3
その他	1.4	-0.2	1.3	1.1	2.1	-42.8
政府部門	1.4	2.0	3.5	3.1	-2.8	-2.8
失業率(%)	3.5	3.5	3.6	3.5	4.4	14.7
平均時給(前年比、%)	3.3	3	3.1	3	3.3	7.9

(ご参考) 非農業部門雇用者数増減と失業率の推移

